2012/11/13(火) 琉球新報

橋下市長に謝罪

出自連載で 朝日新聞出版 社長は引責辞任

週刊朝日が日本維新の会代表の橋下徹大阪市長の出自に関する連載記事を掲載した問題で、出版元の朝日新聞出版の篠崎充社長代行が12日、大阪市役所を訪れ、橋下氏に「人権意識が欠如していた。深く反省し、心からおわび申し上げる」と謝罪した。同社の神徳英雄社長が同日付で引責辞任し、既に更迭されている週刊朝日の河畠大四前編集長を停職3カ月の懲戒処分としたことを明らかにした。

（7面に第三者委要旨）

篠崎氏は、朝日新聞グループの第三者機関「報道と人権委員会」による検証結果も報告した。同委員会の見解は「橋下氏の出自を根拠に人格を否定する誤った考えを基調としている。部落差別を助長する表現が複数あり、差別されている人々をさらに苦しめるものになっている。報道機関として、あってはならない過ちだ」と結論付けた。

橋下氏は「すべて納得できた。一番言いたかったことも認識してもらった」と述べ、検証結果内容を受け入れる意向を表明した。

記事は週刊朝日が10月26日号に掲載した「ハシシタ　奴の本性」で、ノンフィクション作家佐野眞一氏と同誌取材班が執筆した。

「記述や表現に慎重さ欠いた」 佐野氏がコメント

週刊朝日の連載記事打ち切り問題で、筆者のノンフィクション作家佐野眞一氏は12日、朝日新聞グループの外部委員会の検証結果を受け、朝日新聞出版を通じてコメントを出した。要旨は以下の通り。

◇　◇

生まれ育った環境や文化的歴史的な背景を取材し、書き込まなくては、その人物を等身大に描いたとは言えない。こうした手法を取るのは、その人物を歴史の中に正確にポジショニングして描くためだった。差別や身分制度を助長する考えは毛頭なかったが、記述や表現に慎重さを欠いた点は認めざるを得ない。現実に差別に苦しんでおられる方々に寄り添う深い思いと配慮を欠いた結果、それらの方々をさらなる苦しみに巻き込んでしまったことは否めない。今後はこのようなことがないよう、慎重な上にも慎重な記述を心掛ける。関係者の皆さまにご迷惑をおかけしたことを深くおわびする。